

幼児教育史学会 第4回大会報告



幼児教育史学会第4回大会は、2008年12月6日、山梨県立大学を会場として開催されました。宍戸健夫会長より開会の挨拶があり、その後、以下のような研究発表とシンポジウムが行われました。シンポジウムでは、池田充裕氏から話題と映像の提供を受け、東南アジアにおける保育の現状と課題をめぐって、活発な討議が交わされました。

当日は、好天に恵まれ、南と西の二方向に大きく窓の開かれた会場からは、見事な富士山や南アルプスの山なみが展望できました。懇親会は、甲府を代表するワイナリー直営のレストランで開かれ、幾種類もの地産ワインを賞味しながら、世代を超えた楽しい交流のひと時を持ちました。



会場からみた富士山（畠山会員提供）

研究発表

司会：太田 素子（和光大学）
別府 愛（武蔵野音楽大学）



1. アメリカ合衆国中西部における幼稚園運動の指導者の一人、エリザベス・ハリスンの生涯と業績
—アプローチのための基礎作業—
阿部 真美子（山梨県立大学）
2. 韓国の幼児教育における「プロジェクト型保育」実践についての歴史的考察
韓 在熙（四天王寺大学非常勤講師）
3. 昭和初期の関西聯合保育会における保育内容研究
—「遊戯」の分析を中心に—
小山みずえ（上智大学大学院）
4. 大正初期の二葉幼稚園の果たした役割について —東京府慈善協会での活動—
中西和子（日本児童教育専門学校）
5. 明治初期における幼稚遊嬉場・幼稚院構想の形成
湯川 嘉津美（上智大学）

シンポジウム

「東南アジアにおける幼児教育・保育の現状と課題」

司会：丹羽 孝（名古屋市立大学）

話題提供者：池田 充裕（山梨県立大学）



資料展示：東南アジアの保育、山梨県保育史

総会報告

2008年12月6日（16:00～17:00）に幼児教育史学会第4回総会が開かれました。立浪澄子氏（長野県立大学）が議長に選出され、2007年度会務報告、役員選挙結果報告、決算・予算、機関誌編集の順で議事が進められました。審議事項については、全案件が原案通り承認されました。各案件は次の通りです。

報告事項

2007年度会務報告

(1) 会員数

2008年9月末現在 111名

(2) 第3回大会

2007年12月1日、聖徳大学にて開催された。

(3) 機関誌『幼児教育史研究』第3号の刊行

2008年11月に発行した（発行部数150部）。
投稿論文数3本、うち研究論文2本、研究ノート1本を掲載した。

そのほかシンポジウム報告および書評・図書紹介5本を掲載した。

なお、次号の原稿締切は、2009年6月30日（消印有効）。

(4) 会報の発行

5号を2月22日、6号を6月10日に発行した。

(5) 日本学術会議協力団体の指定について

2008年9月18日付で、日本学術会議より協力団体の指定を受けた。

